

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立南大内小学校（京都府）

【取組内容】 ②聞き手により伝わるための情報を選択し活用する能力の育成

- 低学年は生活科、中学年以上は総合的な学習の時間を中心に情報活用能力を育んできた。
- 学習を通して、自分にとって必要な情報とそうではない情報を取捨選択できるように取り組んできた。
- 必要な情報を複数組み合わせ、1つの資料を作成する力を育んできた。

情報活用能力育成を意識した授業

【1年生・生活科】

生活科の学習でアサガオの成長を記録した。アサガオの世話をする中で、アサガオがどのように成長したかを伝え合った。タブレット端末で撮影、記録していた写真を見せながら話したり、実物を見せながら話したりした。1年生なりに相手により伝わる方法を考えて伝え方を選択した。

また、写真を見せていた児童も途中から実物のアサガオを見せるなど、柔軟さをもって学習ができていた。

活用できる情報を最大限に利用する能力が高まったといえる。



アサガオの実物を見て伝える。

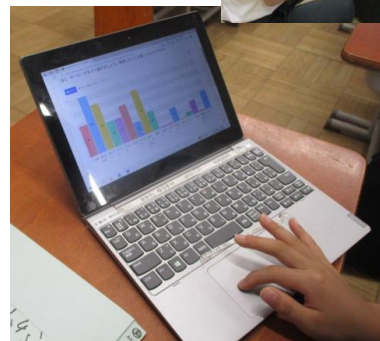


記録していた写真を見て伝える。

【3年生・総合的な学習の時間】

自分たちが住んでいる地域、「南大内小のえとところ」を伝え合った。自分が思う「えとところ」をタブレットで発表するのか、カードで発表するのかを選択した。また、絵を使用するのか、写真を使用するのかも選択した。自分の発表に一番合った組み合わせを考えることで、複数の情報を組み合わせ、1つの発表資料を作り上げる能力が高まったといえる。

また、アンケート機能を活用して学級の意見を見ることで、集計結果から読み取れることを考えられるようになってきた。



<工夫点や変容>

- ・児童にとって、情報が過多になりすぎないようにコントロールをしている。